

# 世界の腕時計

WORLD WRIST WATCH

WORLD **M**OOK

No. **110** ワールド・ムック901  
平成24年1月15日発行  
(通巻901号)

メカ、デザイン、歴史、どれをとっても  
腕時計ほどおもしろいものはない!

WORLD WRIST WATCH  
**WWW**

セイコー130周年記念特別企画  
発展を支える創業の精神

【特集】

# ブライトリング 再検証

2011年新作、日本に登場

ブレゲ／ブランパン

ボール／ポールゲルバー

ジャガー・ルクルト

A.ランゲ&ゾーネ

クストス

高級時計文化の継承者たち(2)  
オーデマ・ピゲ



ポール・ゲルバーさんの工房を訪ねて

# 茶目つきのパイプが効いた実直なる時計師

最小クロックと最も複雑なムーブメントというふたつの世界記録でギネス・ブックに登録される独立時計師ポール・ゲルバーさん。難問こそ彼を奮起させる。そのひたむきさと技術力で、07年には時計業界の功労者に贈られるガイア賞を受賞。控えめな彼だが、その時計は微笑みを生む。



「モデル 42 ジャパン スペシャル」。自動巻き、Cal.42 (ETA2824-2をベースにブラチナ製の3つのローターを備える)。毎時2万8800振動。パワーリザーブ約38時間。ケース径42mm。チタニウム。シースルー・バック。10気圧防水。価格84万円

チューリヒ駅から車で20分ほどの住宅

街のなかにゲルバーさんの住居を兼ねた、こぢんまりとした工房がある。最新のCNCマシン1台に加えて、手動の工作機械が置かれ、若い時計師や見習いとともにゲルバーさんが「モデル42 ジャパン スペシャル」の製造にあたっていた。工房は総勢4人。時計師のシヨーン・フクスさんはお母さまが日本人で、ゲルバーさんの助手役だ。彼は時計店ベイヤーで修理に携わっていた2007年、カルティエが25歳以下の時計師の卵たちを対象に主催する第12回時計コンクールで第3位に入賞している（詳細は小誌第88号144ページ参照）。

デルに限られる。

ポール・ゲルバーは2001年にプロ17001をベースにふたつのローターを備えた「レトロ・ツイン」で特許を取得した。ゲルバーさんは「見て楽しい時計を作りたいから、ツイン・ローターを開発し、もっと面白くできないかと思って3つにしたんだ。3つにすることで2つよりもローターを薄くできるけれど、特に機能性を高めようと思ったわけではありません。とにかくローターの動きを見ていると、時計が生きているように面白いです。4つはうまくいかなかったけどね」と楽しげだ。

ゲルバーさんは1950年にスイス・ベルンに生まれ、66年にソロトゥルンの時計学校に入学。時計師の資格を得て76年に工房を設立して修復や時計メーカーのための開発・製造を行ってきたが、'96年に自らのブランドを立ち上げた。彼の時計づくりには「見て楽しい」ことが基本にある。88年に彼は独立時計師協会に



約3年の開発期間を経て、2005年9月9日に発表されたラ・ショー・ド・フォン国際時計博物館記念時計。デザインはインダストリアル・デザイナーのクリスチャン・ガフナー氏。博物館とスイス国内の限られたショップのみでの販売で、価格は5000スイス・フラン。



参加したが、その翌年のパーゼルでは高さをわずかに2・2センチの木製クロックを発表した。木製の歯車がかみ合う内部機構を見ることができ、時計に付けられた人形の目が動く仕掛けなど、動きの楽しさを表現した。また彼にとってはシンプルな構造であることも重要だ。「後の修理が誰にでも分かりやすく、簡単にできなくてはなりません」と語る。

年産200個程度の彼の工房では、現在、ラ・ショー・ド・フォンの国際時計博物館の時計製造も行われている。これは博物館が2001年に入手した天文時計修復の費用を集めるために館長のルードウィッヒ・エクスリン博士がオリジナル時計を販売することを思いついたことに端を発する。ユリス・ナルダンの天文時計三部作やフリークなど、複雑時計開発を得意とするエクスリン博士だが、「ユニークでシンプル、使い勝手がいい年次カレンダー」開発を試みた。そして9つ



のパーツで稼動する年次カレンダー機構を考案したが、それを製品化するには助け舟が必要だと判断。そしてコンセプトを理解し、確実に実現できる時計師として唯一、頭に浮かんだのがポール・ゲルバーさんだったという。エクスリン博士はETA2892-2をベースに試作を試みたが、ゲルバーさんはETA7750をベースに改造し、年次カレンダー機能をもつワンプッシュ・クロノグラフを完成させた。上の写真のように1列で月、日付、曜日表示し、その左側にある赤いドットで午前、午後を示す。先端が赤のクロノグラフ秒針を備え、裏側にディスク回転式の30分積算計を配置している。

ポール・ゲルバーさんのモットーは「不可能はない」だ。どんな難題にもチャレンジし、答えを出してしまう。1892年に作られ、当時、最も複雑なムーブメントといわれた、「ルイ・エリゼ・ビゲ・ムーブメント」に、1992年から11年を費やしライニングトゥールビヨンとジャンピングミニット付きスプリット秒コンドクロノグラフを加えることに成功。「お客様の尽きない要望で、いろいろなアイデアが浮かんだのです」と言う。「多くの人に時計を楽しんでもらいたいから、できるだけ価格を抑えたい」と語る実直な時計師だが、限界を設けない豊かな発想の持ち主でもある。